

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	かいよ病	灰色かび病	黒星病	灰星病	環紋葉枯病	すす斑病	うどんこ病	縮葉病	白紋羽病	枝枯病	ゆめ合促進
I C ボルドー66DFL	M1	*a	-	◎										
Z ボルドー水	M1	*a	-	◎										
コサイド3000DF	M1	*f	-	◎										
イオウFL	M2	*g	-			◎								
クムラス顆水	M2	-	-			◎								
石灰硫黄合剤	M2	*d	-							◎				
ベンレート水☺	1	7	1			◎			◎					
ケンジャFL	7	1	3			◎								
アミスター10FL	11	1	3			◎			◎					
スクレアFL	11	1	3			◎		◎						
ストロビーDF	11	7	3		◎	◎		◎	◎	◎				
ファンタジスタ顆水	11	1	2		◎	◎	◎		◎					
フロンサイドSC	29	*c	1		◎	◎								
		*b	1									◎		
カスミン液	24	30	2	◎										
アグレプト水	25	90	2	◎										
マイコシールド水	41	21	4	◎										
ロブラール水	2	45	2		◎			◎						
フジワン粒	6	60	1									◎		
インダーFL	3	1	2			◎			◎					
オーシャイン水	3	1	3		◎	◎	◎		◎					
オーシャインFL	3	1	3			◎	◎		◎					
オンリーワンFL	3	1	3			◎	◎		◎					
スコア顆水	3	1	3			◎			◎					
トリフミン水	3	14	3			◎								
マネージDF	3	45	3			◎								

ウ

メ

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	かいよび病	灰色かび病	黒星病	灰星病	環紋葉枯病	すす斑病	うどんこ病	縮葉病	白紋羽病	枝枯病	ゆめ進
バリダシン液5	U18		7	4	◎										
バッチレート塗	M1		*e	3											◎
チオノックFL	M3		21	2			◎								
トレノックスFL	M3		21	2			◎								
ペンコゼブFL	M3		21	3	◎		◎			◎					
ベルコートFL	M7		30	3		◎	◎			◎					
ベルコート水	M7		30	3		◎	◎	◎	◎	◎				◎	
デランFL	M9	劇	14	2			◎			◎					
アタッキン水㊦	1・25		90	2	◎		◎								
ゲッター水㊦	1・10		21	3		◎	◎								
ナリアWDG	7・11		7	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎				
セルカディスDFL	7・M9	劇	14	2			◎			◎					
ナティーボFL	11・3		1	2		◎	◎			◎					
スイッチ顆水	9・12		45	2		◎	◎								
アグリマイシン-100水	25・41		90	2	◎										

㊦：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 857 参照）。*a:葉芽発芽前まで *b:収穫後～開花前まで(但し収穫60日前まで)

*c:発芽期まで(但し収穫60日前まで) *d:発芽前

*e:剪定時及び病患部削り取り直後

*f:硬核期まで *g:発病前～発病初期

ウ

メ

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒害 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	モ モ ヒ メ ヨ コ バ イ 類	カ メ ム シ 類	ハ マ キ ム シ 類	シ ン ク イ ム シ 類	ノ コ メ ト ガ リ キ リ ガ 類	ケ ム シ バ 類	ス カ シ バ 類	コ シ シ バ 類	ケ シ キ ス イ 類	キ ク イ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ハ ダ ニ 類
除虫菊乳3	3A		7	5	◎													
スプレーオイル	UNM		*a	-	◎													
トモノールS	UNM		*a	-	◎													
オリオン水40	1A	劇	7 *e	3	◎					◎	◎							ク
ガットキラール	1B		*b	2									◎		◎			
スミチオン乳	1B		14 *f	2	◎				◎		メ							ク
マラソン乳	1B		7	5	◎	◎			◎									
アグロスリン水	3A	劇	7	3	◎		◎											
アディオン乳	3A		1	2	◎													
スカウトFL	3A	劇	1	3	◎			◎										
フォース粒	3A	劇	3	1												ア		
マブリックEW	3A	劇	21	2	◎						オ							
マブリック水20	3A	劇	21	2	◎		◎				◎							
ロディー水	3A	劇	7	3	◎		◎				◎	◎						
ロビンフードエアゾル	3A		1	5									◎	○				◎
アクタラ顆粒	4A		7	2	◎			◎										ク
アドマイヤー顆水	4A	劇	*g	2	◎													
ダントツ溶	4A		1	3	◎			◎				◎			◎			ク
バリアード顆水	4A	劇	1	2	◎					◎						ア		
モスピラン顆粒	4A	劇	1	3	◎	◎					◎				◎			ク
ディアナWDG	5		1	2					◎		◎							
デリゲートWDG	5		1	2					◎		◎							
キルバー40液*1	8F		*h	1														ク
チェス顆水	9B		21	2	◎													
ニッソラン水	10A		7	2														◎
アブロードFL	16		7	2		幼												
マトリックFL	18		3	3									モ					
カネマイトFL	20B		7	1														◎
ダニトロンFL	21A		7	1														◎
アクセルFL	22B		1	3								◎			◎			ク
サムコルFL10	28		14	3					◎	◎	◎		◎					
フェニックスFL	28		1	2								◎		◎				
			*c	1										◎				
キックオフ顆水	4A・28		14	3				◎			◎							

*1:伐倒木・枯損木での登録、薬剤の使用方法を確認すること *a:発芽前 *b:休眠期(落葉後～萌芽期) *c:開花期まで *d:幼虫発生期 *e:成虫発生期(但し収穫7日前まで)
*f:成虫発生期(但し収穫14日前まで) *g:収穫21日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く) *h:成虫羽化脱出前
ア:アカマダラケシキスイ オ:オビカレハ(別名ウメケムシ) ク:クビアカツヤカミキリ
メ:アメリカシロヒトリ モ:モンクロシヤチホコ 幼:幼虫

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
かいよう病		1. 病枝は切り取り処分する。 2. 防風林、防風垣を設ける。	開花期から5月下旬までは多発しやすい。風雨直後の防除を重点的に行う。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △希釈倍数等使用方法を誤ると、葉の退緑斑、果皮の退緑化等薬害を生じるので注意。
	開花期以降 ～5月下旬	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100(水)● 1000倍 アタッキン水和剤● 800～1000倍 Zボルドー(水) 500倍 マイコシールド(水)●△ 1500倍	
灰色かび病		・ 地上に落下した発病果は集めて処分する。	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	2月下旬 ～3月下旬	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤Ⓢ●1000～1500倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	
黒星病	発芽前	・ 病枝は切り取り処分する。	春先から温暖で雨の多い年に発生しやすい。 小向、豊後、白加賀、玉英などはかかりやすく、小梅品種、梅郷、南高などは比較的にかかりにくい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *小粒核果類での登録
	4～5月	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 オーソサイド水和剤80* 800～1000倍 スコア顆粒水和剤● 2000～3000倍 ストロビードライフフロアブル● 2000～3000倍 ゲッター水和剤Ⓢ● 1000倍 ベルクート水和剤 2000倍 マネージDF● 4000倍	
環紋葉枯病	生育期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビードライフフロアブル 2000倍 トップジンM水和剤Ⓢ* 1000～1500倍 ベルクート水和剤 2000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍	多雨年に多発する。 *小粒核果類での登録
すす斑病	4月上旬 ～5月上旬	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビードライフフロアブル 2000～3000倍 ベルクート水和剤 2000倍	

ウ
メ

ウメ（果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
輪紋病		<ul style="list-style-type: none"> ・感染樹を伐採抜根処分する。 ・アブラムシ類を防除する（アブラムシ類の項を参照）。 	<p>本病はウメ輪紋ウイルス（PPV）による。主にPPV感染樹を吸汁したアブラムシ類により伝染する。</p> <p>本病発生地域では春と秋のアブラムシ類防除が重要である。</p>
アブラムシ類	4月上旬～5月中旬（落花直後の散布が効果的である）	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 <p>アディオン乳剤 3000倍 アドマイヤー顆粒水和剤*^a 10000倍 ウララDF* 2000～4000倍 オリオン水和剤40 1000倍 スミチオン乳剤 1000～2000倍 ダイアジノン水和剤34* 1000～1500倍 バリアード顆粒水和剤 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～6000倍</p>	<p>モモアカアブラムシ、スモモオマルアブラムシは葉を縮れさせる。</p> <p>オカボノアブラムシは新梢に、モモコフキアブラムシは葉裏に寄生してすす病を誘発する。</p> <p>*^a: 露地栽培については発芽期から開花期を除く</p> <p>*小粒核果類での登録</p>
カイガラムシ類	12月（休眠期） 5月中旬～6月中旬 ・9月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤を散布する。 <p>スプレーオイル#1 30～50倍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫発生期に次の薬剤のいずれかを散布する。 <p>マラソン乳剤 1000～2000倍 アプロードフロアブル#2 1000倍 トランスフォームフロアブル* 1000～2000倍</p>	<p>#1スプレーオイルは芽の活動する以前（12月）に散布する。</p> <p>#2幼虫での登録</p> <p>タマカタカイガラムシは越冬幼虫を削りとりか、5月中下旬に発生する若齢時に薬剤防除する。</p> <p>*小粒核果類での登録</p>
モモヒメヨコバイ	7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤を散布する。 <p>テッパン液剤* 2000倍 マブリック水和剤20 4000倍 ロディー水和剤 2000倍</p>	<p>*小粒核果類での登録</p>
オビカレハ（ウメケムシ）	1月（剪定時） 4月上旬（幼虫初期） 5月上旬（分散期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卵は小枝に指輪状にうみつけれられるので剪定の時に除く。 2. 分散前の幼虫を巣ごと処分する。 <ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤を散布する。 <p>マブリックEW 4000倍</p>	<p>薬剤防除は幼虫の群生している初期に行う。</p>

ウ

メ

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アメリカシロヒトリ		1. 若齢幼虫期には、巣網をつくって集団でいるので枝ごと処分する。 2. 幼虫発生期に次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000倍 ダイアジノン水和剤34* 1000～1500倍	幼虫は5月下旬～6月下旬と8月中旬～9月中旬の年2回発生する。 幼虫が巣網を離れる前に防除する。低木の根元などで蛹になる。 *小粒核果類での登録
ハダニ類		・次の薬剤を散布する。 カネマイトフロアブル 1000倍	
その他の病害虫		ウメスカシクロバ	

ウ

メ